

2024年度 Space Designer検定試験 総評

ここ数年は課題の内容が複雑化する傾向にありましたが、今年度は「ウェルビーイングを意識したワーキングスペースのラウンジ」をテーマとして、全体としては比較的シンプルで素直な課題でした。シンプルであるが故にイメージ作りが難しく、実力がはつきり出てしまう結果となりました。

●基礎課題について

モデリングが完成していることを前提として、照明器具を含め、未完成なものは不合格としました。

今年度は大きな曲面の処理がポイントでしたが、ほぼ全ての作品が正確にできており、近年のモデリング能力の向上を感じました。一方、ライティングについては問題が多く、照明の設定ができていないものや、レンダリングに必要な光源の設定ができていないものが多くみられました。そのほかには、テクスチャの設定が不自然に感じるものや、あおり補正ができていないものが散見されました。

●応用課題について

優れたパースが多く見られた一方で、提案書としての基本的な構成が不十分な作品も目立ちました。完成度の高いパースが並んでいるものの、それだけでは提案の意図や説得力が十分に伝わらず、要素が不足している印象を受けました。

提案書は単にビジュアルを見せるだけでなく、コンセプトや意図を的確に伝え、読み手に納得感を持たせることが重要です。伝えたい内容を整理し、情報の流れや構成を意識することで、より完成度の高い提案につながるのではないかと思います。今後のさらなる成長を期待しています。

提案書に必要な要素

- ・よく練られたコンセプトと魅力的なキャッチコピー
- ・テーマに合った書体の選択と文字サイズの設定
- ・英文を使う場合は、スペルミスがないか厳しくチェックが必要。
- ・余白も考慮した見やすいレイアウト
- ・目的にあったパース
- ・パースについての簡潔な説明

説明がない、または足りないものが多い。一方で説明が多すぎて読みづらいも

のもみられる。

- ・色彩計画やインテリアイメージの説明
素材サンプルを並べるだけでは不十分。
- ・使用した家具のイメージ、そのレイアウトがわかる平面

●受賞作品について

今回は際立って優れた作品がなく、選考にあたり大変悩みました。慎重に審査を重ねた結果、本年度は残念ながら金賞の該当者を選出しないという判断に至りました。

銀賞：2作品

「作品1」は、応募作品の中で唯一、使用した家具のイメージが提案書に表現できていました。正確なモデリングと、必要なパースが十分に配置されていることも評価されました。一方、パースのあおり補正ができていないことや人物が足りないこと、提案書についてはタイトルにひねりがなく、レイアウトが全体に雑然としていることや文字の配置などが気になりました。

「作品2」は、ムードのある優れたパースや、インテリアコーディネーターからの要望である大型スクリーンを中心としたイベントの様子がよく表現できていることが評価されました。提案書のレイアウトはすっきりしてよいですが、要素が不足していました。

銅賞：2作品

「作品1」は、提案書のレイアウトがすっきりと整っていて好感が持てますが、全体として表現が固く、面白味に欠ける点が惜しいところでした。また、要素不足もみられました。

「作品2」は、パースが優れていて、商品性が高く魅力的な点が評価されましたが、提案書のタイトル文字の表現がやや過剰に感じられました。また要素不足もみられました。

最後に、課題に取り組むにあたって、課題をよく読んで要求には全て答えるようにしましょう。次年度も引き続き訴求力のある作品を期待します。

以上